

CUT	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		<p>タイトルイン 「病院薬剤師と保険薬剤師の相互理解のためのDVD 業務紹介編」</p>		
	 <p>&lt;写真&gt; イメージ写真 総括的な流れのそれぞれのシーンの写真や映像を組み写真的に表現</p>	<p>イントロダクション</p>	<p>&lt;ナレーション&gt; 近年、日本人の2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで死亡するといわれています。薬剤師として患者さんのがん治療に関わっていくためには、患者さんの治療の流れと病院薬剤師・保険薬局薬剤師それぞれの立場や特性・役割を正しく理解することが必要です。</p>	
A-1	 <p>&lt;写真&gt; 患者さんが病院へ来院する風景</p>	<p>タイトルイン 「患者さんの治療の流れ」</p>	<p>&lt;ナレーション&gt; 地域のがん検診などでがんに疑われ、精密検査を受けるために病院を訪れた患者さんが、どの様に診断され、治療方針が決められていくのか、その流れを見てみましょう。</p>	
A-2 A-3 A-4 A-5 A-6 A-7 A-8	 <p>&lt;写真&gt; ・画像検査／病理検査／血液検査／カンファレンス ・手術／抗がん剤治療／放射線治療</p>		<p>&lt;ナレーション&gt; まずは疑われたがんの種類によって必要な「画像検査」や「病理検査」、「血液検査」などが行われます。その結果がんと診断されると、医師・薬剤師・看護師などが参加するカンファレンスで治療方針が検討されます。がんの治療には、手術、抗がん剤治療、放射線治療があり、それらを組み合わせることもあります。</p>	
A-9	 <p>&lt;写真&gt; 患者とムンタラ(病状説明)している風景</p>		<p>&lt;ナレーション&gt; その後、担当医から病状やカンファレンスで決定した治療方針について患者さんに説明や告知が行われます。最終的な治療方針は患者さんと相談の上決定され、治療が開始されます。</p>	

CUT	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		<p>タイトルイン 「病院薬剤師の場合」</p>	<p>&lt;ナレーション&gt; それでは病院薬剤師のがん治療への関わりを見てみましょう。</p>	
<p>A-10 A-11 A-12 A-13</p>	 <p>&lt;写真&gt; ・レジメンチェック ・ミキシング ・2回目以降に副作用確認 ・薬剤師外来</p>		<p>&lt;ナレーション&gt; まず、<b>がん薬物療法を行う</b>患者さんに対して、使用する抗がん薬や副作用、治療スケジュールなど、<b>適応する</b>レジメンについての説明を担当します。 また、抗がん薬の投与量や投与間隔、減量基準や休薬基準の確認、および、支持療法の確認などを行います。これら一連の作業はレジメンチェックと呼ばれています。  注射抗がん薬については、専用の設備でミキシングを行い、投与の際に患者さんに説明したり副作用を確認するなど、投与に立ち会う場合もあります。患者さんが注射抗がん薬の投与を受けるたびに、副作用の確認と支持療法の提案などの対応を行っています。  また最近では、経口抗がん薬治療を行っている患者さんを対象として事前の介入を行う、「薬剤</p>	
		<p>タイトルイン 「保険薬局の場合」</p>	<p>&lt;ナレーション&gt; 次に、保険薬局の薬剤師の治療へのかかわりを見てみましょう。</p>	
<p>A-14 A-15 A-16 A-17 A-18 A-19</p>	 <p>&lt;写真&gt; ・受付で処方箋提出 ・処方監査 ・患者さんヒアリング ・疑義照会 ・調剤 ・服薬サポート(カウンター)</p>		<p>&lt;ナレーション&gt; 病院で治療を終えた患者さんは、保険薬局で処方箋を提出します。薬剤師は処方監査、患者さんへのヒアリングを行い、必要に応じて疑義照会をします。その後、調剤、服薬サポートを行います。</p>	
		<p>タイトルイン 「安全で適正ながん薬物療法に対する薬剤師が担う役割」</p>	<p>&lt;ナレーション&gt; では、がん治療を受けられる患者さんに対して、薬剤師はどう関わるべきなのでしょう。  ここで、薬剤師の田中さんにそのポイントを伺ってきましょう。</p>	
		<p>タイトルイン 「POINT1 患者さんへの説明」</p>		

CUT	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
A-20	 <p>&lt;写真&gt; 説明イメージ写真2cut</p>		<p>まず患者さんへの説明ですが、患者さんへの化学療法での治療計画の資料を渡し、治療のスケジュール、副作用の種類とその対策の支持療法薬の説明、緊急時の対応等、安全と効果を視野に入れた患者さんへの理解を深めて頂く必要があります。</p>	
A-21	<p>&lt;写真&gt; 説明イメージ写真2cut</p>		<p>(1)わかりやすい言葉で説明</p> <p>できるだけ専門用語の使用は避け、わかりやすい言葉で患者さんに説明することが大切です。ご家族が同行されている場合は、患者さんと一緒に説明を聞いてもらおうと理解が深まります。</p>	
A-22	<p>&lt;写真&gt; 説明冊子イメージ写真2cut</p>	<p>POINT1 患者さんへの説明</p> <p>&lt;田中康裕様インタビュー&gt;</p>	<p>(2)患者向けの説明冊子を利用</p> <p>がん薬物療法の説明書がない場合は、製薬会社のホームページからダウンロードできるものも多くあり、これらを活用することも有効な手段です。事前にダウンロードできる資料を調べておくに役に立ちますが、(ホップステップジャンプ本を指し)この様にサイトの情報をまとめた書籍なども参考にすると便利です。</p>	<p>写真 説明冊子の例(製薬会社) がん化学療法のためのお薬説明書(薬事新報社) ホップステップジャンプ(南江堂)</p> <p>コメント冒頭にテロップでテーマを表示</p> <p>田中様のインタビュー風景とイメージ写真を相互に表示</p>
A-23	<p>&lt;写真&gt; 薬服用イメージ写真2cut</p>		<p>(3)支持療法薬の服用タイミングは明確に</p> <p>支持療法薬の説明は十分に行い、患者さんの理解度を定期的に確認しましょう。どのようなときに服用をはじめ、どうなったら中止するか、また、症状が継続する場合は受診のタイミングなども説明し、正しく理解してもらうことが治療継続には重要です。</p>	
A-24	<p>&lt;写真&gt; 患者と薬剤師の会話イメージ写真2cut</p>		<p>(4)理解度の確認</p> <p>また、薬の服用に関して、患者さん自身で服用が可能か、あるいは、援助者がいないと服用できないかなど、服用状況の把握や、何を目的として服薬しているのか理解しているか確認することも大切です。</p>	

CUT	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		タイトルイン 「POINT2 レジメンチェック」		
A-25	 <p>&lt;写真&gt; レジメンイメージ写真2cut</p>		2つ目はレジメンチェック。がんの化学療法を安全かつ効果的に実施するために、薬剤の投与を時系列的に網羅した治療計画書であるレジメンの登録・管理が必要です。その際、何をポイントに確認し、より深く理解してチェックすることができるかが重要です。	
A-26	<p>&lt;写真&gt; 調剤イメージ写真2cut</p>	POINT2 レジメンチェック	(1)投与量 抗がん薬の投与量は体表面積や体重、AUCで決まるものが殆どです。身長や体重、またクレアチニン値が最新のものであることを確認し、薬剤師が再計算して、確認することはとても大切です。	写真 がん化学療法レジメンハンドブック(羊土社) 経口抗がん薬ハンドブック(じほう) コメント冒頭にテロップでテーマを表示 田中様のインタビュー風景とイメージ写真を相互に表示
A-27	<p>&lt;写真&gt; レジメン資料イメージ写真2cut</p>	<田中康裕様インタビュー>	(2)治療スケジュールや減量・休薬基準 薬剤によっては投与期間や減量規定が複雑であったり、減量基準が定られていることが多いです。さらに、支持療法や前投薬など抗がん薬とセットで投与される薬剤も確認する必要があります。それらの情報をその都度調べることは大変ですので、このような(レジメンハンドブックを示して)薬剤やレジメンごとに情報がまとめられている書籍を活用して確認すると簡単で便利です。	
A-28	<p>&lt;写真&gt; 患者と薬剤師の会話イメージ写真2cut</p>		(3)保険薬局で連携(情報)がない場合には？ 保険薬局で病院との連携や情報がない場合は、患者さんに検査データを病院でもらっていないか尋ねてみましょう。最近では検査データをお渡しする病院が増えてきていますので、積極的に声を掛けて患者さんから情報を収集しましょう。	


CUT	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		タイトルイン 「POINT3 副作用の確認と対応」		
A-29	 <p>&lt;写真&gt; 薬剤師仕事イメージ写真2cut</p>		患者さんへの治療を行って行く中で、副作用の確認を経過とともにしっかりと確認することが大切です。 まず1回目の治療の際には、副作用の説明を行うことで患者さんに理解をしていただき、2回目の治療では、実際に現れた副作用に対しての対応を行います。	
A-30	<p>&lt;写真&gt; 患者への会話イメージ写真2cut</p>	POINT3	(1)患者さんの訴えを十分に聞き、幅広く副作用状況を確認  開いた質問で症状を十分に伺った上で、具体的な副作用の症状についての質問を行い、幅広く副作用の状況を確認することが大切です。	コメント冒頭にテロップでテーマを表示 田中様のインタビュー風景とイメージ写真を相互に表示
A-31	<p>&lt;写真&gt; 患者日誌イメージ写真2cut</p>	副作用の確認と対応  <田中康裕様インタビュー>	(2)製薬会社が提供する「患者日誌」などを活用すると便利  自宅での副作用発現状況を把握することは容易なことではありません。製薬会社が提供する「患者日誌」などを活用し、患者さんに自宅での様子を記入して貰い、それを患者さんと一緒に見ながらお話を伺うのも有効な手段です。	
A-32	<p>&lt;写真&gt; 提案イメージ写真2cut</p>		(3)支持療法の積極的な提案  こうして得られた情報を十分に検討し、必要な支持療法について積極的に提案しましょう。保険薬局においては主治医に直接提案することが難しいことがあります。そういう場合は、病院の薬剤部に提案してみましょう。病院薬剤部も提案された支持療法を主治医と検討し、その結果は積極的に保険薬局にフィードバックし、連携を図りましょう。	

CUT	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
A-33	<p>&lt;写真&gt; アドヒアランスイメージ写真2cut</p>	<p>POINT3 副作用の確認と対応</p>	<p>(4)定期的に確認 経口抗がん薬のアドヒアランスの確認は定期的に行いましょう。その際、服薬状況を確認することも大切ですが、特に処方変更があった場合は、患者さんに服用方法・期間を患者さんに復唱してもらうなどして、正しく理解していることを確認しましょう。もしかしたら、飲み残しはないのもも、服用方法が間違っているのかもしれない。製薬会社が提供する「患者日誌」などを活用すると、アドヒアランス向上への糸口が見つけれられるかも」ねま</p>	<p>コメント冒頭にテロップでテーマを表示 田中様のインタビュー風景とイメージ写真を相互に表示</p>
A-34	 <p>&lt;写真&gt; 薬剤師仕事イメージ 複数カット</p>	<p>エンディング</p>	<p>&lt;ナレーション&gt; いかがでしたか？ このように、病院薬剤師、薬局薬剤師それぞれの立場を理解することで、安全で効果的ながん薬物治療を行うことができます。  患者さんが安心してがん薬物治療を受けることができるように、皆さんで連携していきましょう。</p>	

CUT	PICTURE	ACTION	ALOGUE	TIME
		<p>タイトルイン</p> <p>「病院薬剤師と保険薬剤師の相互理解のためのDVD 薬局編」 「保険薬局の窓口にて」</p>		
B-1	<p>&lt;ドラマ&gt;</p> <p>女性患者1名 薬剤師(受付1名)</p>	<p>処方箋を持って薬局に来院する患者。そこで薬剤師に処方箋を渡す。</p>	<p>患者「こんにちは。処方せんをお願いします。」 薬剤師「はい、かしこまりました。お預かりします。今日はお薬手帳をお持ちですか？」 患者「すみません、手帳は持ってないですが…」 薬剤師「そうですね。ではお席で少しお待ち下さい」</p>	<p>処方せんの内容を具体的に見せる ゼローダ、デキサメタゾン2日分 (田中先生作成)</p>
B-2	<p>&lt;ドラマ&gt;</p> <p>女性患者1名 薬剤師(受付1名) 薬剤師(仲間1名)</p>	<p>処方箋を見ても患者の正しい症状を判断できない薬剤師。同僚にも確認するが、判断しきれない状況</p>	<p>薬剤師「ゼローダとデカドロン。。。確かゼローダって投与方法が何種類があったと思うけど、この患者さんの場合はどれかしら？あと、デカドロンが2日分って。。。日数間違いかな？このまま調剤してもいいのかしら…」</p> <p>※処方せんのアップ</p> <p>薬剤師 一人あたふたしている 「すみません、この患者さんの処方箋なんです…」</p> <p>同僚薬剤師「あれ、これじゃこのまま調剤していいか解らないね。どこのがんかも解らないし。どうしようかしら…。患者さんに聞いてみるしかないですね」</p> <p>患者 一待たされてイライラしている</p>	<p>薬剤師が処方せんを見て、頭で疑問を回想しながら、調剤室へ、同僚と一緒に添付文書や本を見て処方せんを確認している。でも、乳がん？大腸癌？点滴は？デカドロン？と困っている風景</p> <p>その向こうで患者さんがチラチラ不安な風を映し出す。</p>
B-3	<p>&lt;ドラマ&gt;</p> <p>女性患者1名 薬剤師(受付1名)</p>	<p>患者に症状を聞くも、患者も正しく伝えられない、ヒアリングしきれない状況。イラつく患者。</p>	<p>薬剤師 一待っていた患者に近づく。 「すみません、この処方せんに関して少しお伺いしたいんですが…先生からお薬に関して何かお話はありましたか？」</p> <p>患者「いいえ。なぜですか？」</p> <p>薬剤師「実は、このお薬の指示なんですけど、これだけでは当方では判断できないので病院で何かお伺いしていないかと思ひまして。。。」</p> <p>患者「え？そうなの？そんなこと言われても分からないわ」</p> <p>薬剤師「そうですね…。それでは少しお伺いしたいのですが、このお薬を飲まれるのは初めてですか？」</p> <p>患者「はい」</p> <p>薬剤師「そうですね。以前に手術を受けられたことはありますか？」</p> <p>患者「はい」</p> <p>薬剤師「それはどこの手術でしたか？」</p> <p>患者「そんなこと、話さないといけなの？」</p> <p>薬剤師「申し訳ありません。できれば…。」</p> <p>患者「大腸よ。」</p>	

CUT	PICTURE	ACTION	ALOGUE	TIME
B-4	<p>&lt;ドラマ&gt; 女性患者1名 薬剤師(受付1名)</p>	<p>質問攻めで患者が怒り出す。</p>	<p>薬剤師「ありがとうございます。では、今日は病院で何か点滴を受けましたか？」</p> <p>患者「さっきからいろいろ聞いていくけど、そんなに聞かないと分からないの？時間がないんだから、早く処方箋通りに薬を出してちょうだい！病院でも長い間待たされて疲れているんだから！」</p> <p>薬剤師「申し訳ありません。今用意します。」</p>	
B-5	<p>&lt;ドラマ&gt; 女性患者1名 薬剤師(受付1名)</p>	<p>薬の在庫がなく、結果患者を怒らせてしまう。謝る薬剤師。</p>	<p>(少し経って)</p> <p>薬剤師「〇〇様、申し訳ありません、このお薬なんですけど、今この薬局に十分な在庫がありません。お渡しは明日以降になりますけど、よろしいでしょうか？」</p> <p>患者「あなた、何を言ってるの！こんなに待たせて薬が無いだなんて！あきれでものが言えないわ！もういい！他で貰うから処方箋返して！こんな薬局、二度と来ないから！！」</p>	
	<p>&lt;ドラマ&gt; ドラマシーン停止画面</p>	<p>※炎上 画面停止して大きくバツマーク</p>	<p>誤る薬剤師のカットでストップ</p>	



CUT	PICTURE	ACTION	ALOGUE	TIME
		<p>タイトルイン 「来局までの患者さんの動き」</p>	<p>&lt;ナレーター&gt; ここで、がん患者さんが薬局に来局するまでの行動を確認してみましょう。</p>	
<p>B-6 B-7 B-8 B-9 B-10 B-11 B-12</p>	<p>&lt;流れ図式&amp;写真(俳優無し)&gt;</p>	<p>図式で流れを説明  治療の流れとは</p>	<p>&lt;ナレーター&gt; がん治療を受けている患者さんは、病院で受付を済ませた後、採血、診察を経て、通院治療センターや外来化学療法室で抗がん薬の点滴を受ける方もいます。  点滴が終了してから会計を済ませ、そこで処方箋を受け取り、最後に薬局を訪れます。  このように、がん患者さんはたくさんの手順を経て薬局に来局しています。実は、ドラマに登場した患者さんも病院で抗がん薬の点滴を受け、その後、来局していたのです。  抗がん薬治療において、薬剤師はさまざまな場面で患者さんに関わりますが、次のポイントをしっかり押さえておくことで、先ほどのドラマのようなトラブルを回避し易くなります。</p>	<p>それぞれの部署の写真(俳優無し)と共に、時計の画像を映し、その時計が回ることで、時間の長い経過を表現  8時に来院、 9時採血(1時間待ち)、 10時医師診察(1時間待ち)、 12時点滴開始(2時間待ち)、 13時半(点滴1時間半)、 14時会計(30分待ち) を表現 「実は・・・」からの時の映像は、患者さん役の制止画でいいと思います。</p>
	<p>&lt;テロップ&gt; ポイント図</p>	<p>「処方箋にまつわるチェックポイント」  ①待ち時間の多さ ②患者さんの治療方法が不明 ③在庫がない</p>	<p>&lt;ナレーター&gt; 処方箋にまつわるチェックポイントとして  ②患者さんの治療方法が不明 ①待ち時間の多さ ③在庫がない  この3つが考えられます。</p>	
<p>B-13 B-14 B-15</p>	<p>&lt;写真&gt; 検査、診察、抗がん剤治療の風景 患者さんへの笑顔で話す薬剤師</p>	<p>①待ち時間の多さ</p>	<p>&lt;ナレーター&gt; 1つ目は、「待ち時間の多さ」。患者さんは病院の診察・治療で、検査、診察、抗がん薬の投与など、長時間待たされるケースが多いので、この状況を察して患者さんに接する必要があります。</p>	<p>これだけで終わっていいか?もう少し「こうしたらいい」とか入れるか? (0808 田中記載)</p>
<p>B-16 B-17 B-18 B-19 B-20</p>	<p>&lt;写真&gt; お薬手帳(シール) 病院薬剤師が説明している風景  抗がん剤の説明書風景 注射薬の点滴風景 病院検査データの書類風景</p> 	<p>POINT② 患者さんの治療方法が不明</p>	<p>&lt;ナレーター&gt; 2つ目の「患者さんの治療方法が不明」な場合ですが、病院薬剤師は通院治療センターや外来化学療法室などで患者さんと接することが多いですが、その際に、お薬手帳へレジメン内容を記載したり、レジメン内容が印刷されたシールを貼るなどして、情報の共有を図りましょう。また、患者さんにお薬の説明書をお渡しする時などは、「保険薬局でこの用紙を提示してください」というように、一言添えることで、情報共有が図りやすくなります。  一方、保険薬局の薬剤師は、お薬の手帳の確認を行い、それだけでは十分な情報が得られない場合は、病院で抗がん薬の説明書などをもらっていないか、患者さんに確認する必要があります。そのような情報が全て無い場合には、注射薬の点滴を受けたかを確認することも大切です。また可能であれば患者さんに検査データを見せて貰いましょう。最近は検査データを印刷して患者さんにお渡しする病院も増えてきています。是非、確認してみましょう。</p>	<p>※○×形式で映すとおもしろいかも  ⇒ 田原回答 ドラマで×シーンをやっているの、ここでは○の行動紹介のみで良いと思います。</p>

CUT	PICTURE	ACTION	ALOGUE	TIME
B-21 B-22 B-23	<p>&lt;写真&gt; 薬の在庫確認イメージ 電話で確認しているイメージ FAXや電子媒体のイメージ</p>	③在庫がない	<p>&lt;ナレーター&gt; 最後の三つ目は、「薬の在庫が無い」。</p> <p>病院薬剤師は、通院治療センターや外来化学療法室において、患者さんのかかりつけの薬局を把握し、事前に在庫を確認しておくことが大切です。</p> <p>かかりつけ薬局を持っていない患者さんには、保険薬局によっては在庫がない場合もあることを説明し、お薬を貰おうと考えている保険薬局に事前に連絡することを勧めるのも有効でしょう。 このように病院側からのさまざまな動きかけでトラブルを防ぐことができます。</p>	
B-24 B-25 B-26	 <p>&lt;映像&gt; インタビュー ・病院薬剤師 ・保険薬局薬剤師 ・JASPO理事長</p>	<p>インタビュー テーマに沿ってインタビュー</p>	<p>&lt;ナレーター&gt; それではここで、どうすれば病院薬剤師と保険薬局の薬剤師が連携していけるのかを、それぞれの立場の薬剤師に伺ってみましょう。</p> <p>&lt;テーマ&gt; ・薬薬連携ができてないと炎上する ・病院と保険薬局のお互いの治療の流れを理解することが必要 ・抗がん剤治療をきちんと理解してみよう</p> <p>患者さんの治療の流れ ・抗がん剤治療の医療と薬剤師の関わり</p>	<p>※要検討(インタビュー中)</p> <p>将来的には、保険薬局さんからの情報を病院へ連携。診療に活かす。(トレーニングレポートやテレフォンフォローアップを紹介)</p>
B-27 B-28 B-29	 <p>&lt;ドラマ&gt; ※円滑に連携している再現シーン</p> <p>女性患者1名(俳優) 薬剤師 受付1名(俳優) 薬剤師(関係者)</p>	<p>エンディングイメージ</p> <p>病院薬剤師⇒保険薬局薬剤師(かかりつけ薬剤師)に電話、連携から始まるシーン。</p> <p>笑顔での電話シーンやおくすり手帳での連携確認シーン。</p> <p>薬局から患者さんへの迅速な調剤、服薬サポート。</p> <p>患者さんも喜び、薬剤師も笑顔で終了</p>	<p>&lt;ナレーター&gt; みなさん、いかがでしたか?</p> <p>このように、病院薬剤師と保険薬局薬剤師の連携を行うことで、患者さんへの負担を減らしてよりよい治療のサポートができることをご理解いただけたかと思います。</p> <p>このDVDの内容を教訓として、ぜひ皆さんも一緒に連携ができる環境を作り上げていきましょう。</p>	